

## 生駒市市政顧問が従事した職務の遂行に係る情報

議題	1. 市民自治活動・学び  2. 産業・雇用就労
日時	令和7年6月25日（水） 13:00 ~ 15:00
場所	特別会議室ほか（市政顧問はオンライン参加）
出席者	市政顧問 市長、副市長 教育長、生涯学習部長（議題1） 地域活力創生部長、同部次長、地域コミュニティ推進課長（議題1, 2） 農林課長、商工観光課課長補佐、観光振興室長（議題2） CDO、経営企画部長、企画政策課長、企画政策課企画官
主な意見（概要）	<p>I. 市民自治活動・学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自治会でなければいけないのか」という観点で「自治会がもし無かったらどうなるのか」というブレインストーミングをやってみたら良い。もし自治会が存在しなかつたら何が起こるのか、自治会以外で解決するにはどんなものがあれば良いという頭の体操をしてみてはどうか。</li> <li>・市民のいろいろな活動と自治会活動を縦横の軸に置いた時、どのコミュニティにも所属していない人がどのくらいいるのかを一度マッピングしてみると良い。それらの市民に対しては行政が直接アプローチする必要があるが、どこかのコミュニティに属しているならば、そのコミュニティに対して、市役所が発信することによって万遍なく届くとか、そういうことができるかも知れない。</li> <li>・施設のリニューアル整備に係る財源について、補助金以外にも企業のスポンサー的なものを取得できるように制度化することも考えられる。</li> <li>・全国的な企業との連携と同時に、そういう事例を使って商工部門と一緒に地域の企業の人たちが生涯学習やまちのコミュニティの部門と連携することで地域の企業もより潤うというような施策は考えられないか。</li> <li>・自治会など、団体としての活動が長くなることで、なぜ活動が生まれてきたのかといった歴史的経緯や、団体の価値が判らなくて大変だということ</li> </ul>

だけがフォーカスされている気がする。「もし無かったら」という議論をしたときに、団体の価値が見えてくるので、必要な価値の部分だけを残しながら、「どこを軽くするのか」とか、「その価値ならば他のものに置き換えられるのでは」といった話ができる。いろんな地域でもそういった議論を行うことも考えられる。

## 2. 産業雇用就労

・創業支援について、生涯学習部局など他の部門との連携は ILBH の卒業生などがハブになることで、自治会の話やコミュニティの話等の横の繋がりができるため、部署を超えてどんどん進めるに良い。

・市内の製造業がどうやって維持し続けられるのか、もしくは売上を伸ばし続けられるのかという観点でのサポートはとても重要。

・いこみなプロジェクトでは、宝山寺界隈にどういう旅行客が長期滞在するのかという仮説を作り、その旅行客がこのエリアで楽しめるにはどういう飲食があつたらしいかというところから地域と話をするようにしないと、地域の人がやりたいことでやるとちぐはぐなことが起きる可能性がある。市役所から押し付けをしてはいけないが、全体のデザインから議論に入らないとなかなか盛り上がらないかもしれない。

・これから社会課題を考えると、食を自分たちの地域で確保しておくというのはすごく重要。

・農というものの価値がみんな見ていない気がしている。大きいビジョンを持って、みんなが楽しみながら農業をやるけれども、それも経済的な価値になって自分たちの生活にもプラスになるし、地域にも非常に貢献してみると、ふうに見える形にしていくことは考えられる。

・生駒市としては住んでる人たちの所得が落ちるかもしれないという前提で、その受け皿としての農業を今からどのように準備しておくかも考えておいた方が良い。